



業況DIは、3カ月連続の改善。先行きも回復基調が続く

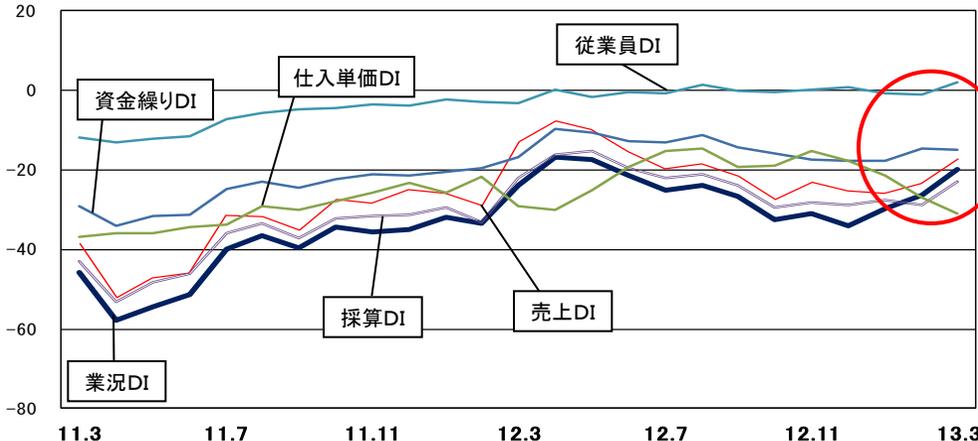
ポイント

- ▶ 3月の全産業合計の業況DIは、▲19.7と、前月から+6.7ポイントの大幅改善。円安・株高が続いていることに加え、景気回復への強い期待感を背景にマインドの改善が進み、企業の生産活動や個人消費は持ち直しの動きを強めている。他方で、円安により、燃料(原油、ガス)や原材料の価格が上昇を続ける中で、価格転嫁が思うように進まない企業は製造業・非製造業を問わず多い
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲10.3(今月比+9.4ポイント)と、大幅に改善する見込み。燃料や原材料価格の上昇に伴う収益の圧迫に加え、電力料金値上げへの懸念や価格転嫁が難しいとする声は大きいものの、円安・株高を背景に、企業の業績改善や個人消費の持ち直し、一段と高まる景気浮揚への期待感にけん引され、回復基調は続く見通し

2013年度の雇用(採用)・賃金について

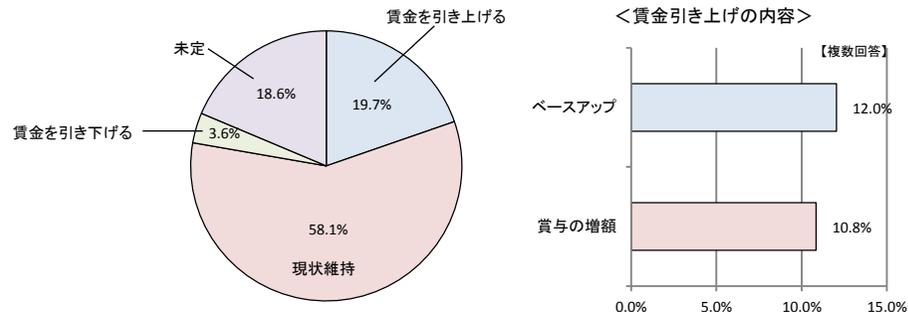
- ▶ 人員を「採用、または採用予定」の企業(全産業)は、45.4%と前年度(50.3%)から減少する一方、「現状維持もしくは削減予定」の企業(全産業)は、40.5%と前年度(27.8%)より大幅に増加
- ▶ 足元では人手不足感が強まる中、大手企業の採用拡大と学生の大手志向の高まり、自社が求める人材の応募がない等から、新規の採用には慎重な姿勢が目立つ

LOBO全産業合計の各DIの推移(2011年3月以降)



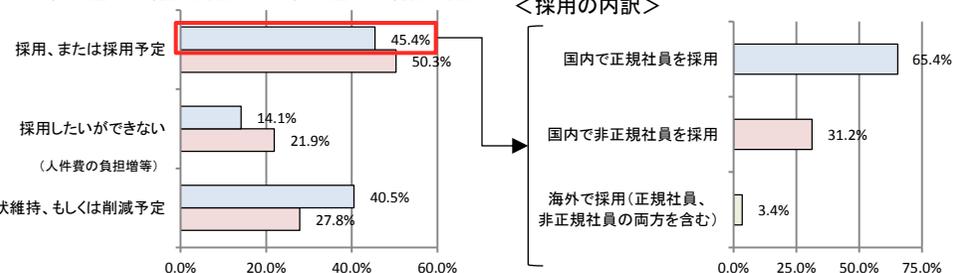
- ▶ 賃金引き上げ(ベースアップ、賞与の増額)を予定している企業(全産業)が19.7%、現状維持が58.1%である一方、未定は18.6%に上る
- ▶ 景気回復への強い期待感を背景に、賃金引き上げについて前向きな声が増えつつあるものの、賃金引き上げの判断材料となる業績改善には相応の時間を要する見通し

◆賃金に対する考え方



◆人員の採用について

□2013年3月調査(2013年度採用計画) □2012年4月調査(2012年度採用計画)



[中小企業の声]

- ▶ 高齢者に対する継続雇用がほぼ義務化する中、なかなか若年者の採用には踏み切れない (小松 工作機械器具卸売業)
- ▶ 燃料価格が上昇する中、業況は好転していない。内需関連企業に景気回復は実感できず、新規採用数を抑制している (大垣 石灰製造業)
- ▶ パートタイマーの新規採用を検討しているが人が集まらない (多治見 スーパー)

[中小企業の声]

- ▶ 取引先が海外調達を加速。海外企業との競争が激しいため、賃金のベースアップは考えられない。成果に対しては、一時金での対応を考えている (本庄 自動車部品製造業)
- ▶ ここ数年、賃金水準は現状を維持。新規採用を抑制していることから、従業員のモチベーションアップを図るため、ベースアップの検討を始めた (西条 自動車整備業)
- ▶ 業績が上がるようであれば、一時金を増額したい (唐津 百貨店)